

長岡工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	地域産業と技術
科目基礎情報						
科目番号	0005		科目区分		一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2	
開設学科	専攻科一般科目		対象学年		専1	
開設期	前期		週時間数		2	
教科書/教材	プリント等					
担当教員	田中 聡,牧野 智一					
到達目標						
(科目コード：A0020，英語名：Local Industries and Technology) この科目は長岡高専の教育目標の(F)と主体的に関わる。この科目の到達目標と、成績評価上の重み付け、各到達目標と長岡高専の学習・教育到達目標との関連を以下に示す。①新潟県内の主要産業と技術の状況を理解する。50% (F2) ②新潟県内の産業や技術について調査・分析を行い、発表する。50% (F2)						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	新潟県内の主要産業と技術の状況を詳細に理解する。		新潟県内の主要産業と技術の状況を理解する。		新潟県内の主要産業と技術の状況を概ね理解する	左記に達していない。
評価項目2	新潟県内の産業や技術について詳細に調査・分析を行い、発表できる。		新潟県内の産業や技術について調査・分析を行い、発表できる。		新潟県内の産業や技術について概ね調査・分析を行い、発表できる。	左記に達していない。
評価項目3						
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	地域の産業・経済に対する関心は、日本だけではなく世界的に高まってきている。地域経済なしに日本経済も世界経済も存在しえず、地域経済及びそれを支える地域産業と技術を調査・分析することの意義は大きい。この科目では、新潟県内の産業と技術の状況を理解するとともに、自ら調査・分析することを通して地域の産業・経済について理解を深める。 ○ 関連する科目：歴史学，哲学，経済学（前年度履修），地域文化論（後期履修）					
授業の進め方・方法	新潟県内の産業と技術の現状と課題について講義する。また、地域産業と技術について、グループごとに調査・分析を行い、発表する。この科目は学修単位科目のため、事前・事後学習としてレポート課題などを実施する。					
注意点	特になし。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス		地域産業と技術について学ぶことの意義を理解する。	
		2週	新潟県内の地域産業と技術の現状と課題 1		新潟県内の産業と技術の現状と課題について理解する。	
		3週	新潟県内の地域産業と技術の現状と課題 2		新潟県内の産業と技術の現状と課題について理解する。	
		4週	新潟県内の地域産業と技術の現状と課題 3		新潟県内の産業と技術の現状と課題について理解する。	
		5週	新潟県内の地域産業と技術の現状と課題 4		新潟県内の産業と技術の現状と課題について理解する。	
		6週	新潟県内の地域産業と技術の現状と課題 5		新潟県内の産業と技術の現状と課題について理解する。	
		7週	中間まとめ		ここまでの学びを総括する。また、グループごとの事例研究の計画を立てる。	
		8週	地域産業を行く 1 （バスツアー）		地域産業の現場を訪問し、その現状と課題について理解を深める。	
	2ndQ	9週	地域産業を行く 2 （バスツアー）		地域産業の現場を訪問し、その現状と課題について理解を深める。	
		10週	事例で学ぶ地域産業と技術 1		グループごとの事例研究の成果発表の準備をする。	
		11週	事例で学ぶ地域産業と技術 2		グループごとの事例研究の成果発表を通して、地域産業と技術について理解を深める。	
		12週	事例で学ぶ地域産業と技術 3		グループごとの事例研究の成果発表を通して、地域産業と技術について理解を深める。	
		13週	事例で学ぶ地域産業と技術 4		グループごとの事例研究の成果発表を通して、地域産業と技術について理解を深める。	
		14週	事例で学ぶ地域産業と技術 5		グループごとの事例研究の成果発表を通して、地域産業と技術について理解を深める。	
		15週	事例で学ぶ地域産業と技術 6		グループごとの事例研究の成果発表を通して、地域産業と技術について理解を深める。	
		16週	最終まとめ		最終成果物を提出する。また、本授業の総括を行う。	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	4	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	他者の意見を聞き合意形成することができる。	4	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	4	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	4	

				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	4	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	4	
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	4	
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	4	
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	4	
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	4	
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	4	
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	4	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	提出物	合計
総合評価割合	0	20	20	30	0	30	100
基礎的能力	0	20	20	30	0	0	70
専門的能力	0	0	0	0	0	30	30
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0